

# 令和元年度 東京都立八王子東高等学校 経営報告

東京都立八王子東高等学校長

宮本久也

## 1 今年度の取り組みと自己評価

### (1) 教育活動への取り組みと自己評価

#### ① 学習指導

ICTを活用した授業をはじめ、ペアワークやグループワークを適宜取り入れた授業など、生徒の主体的な学びを引き出そうとするアクティブ・ラーニング型の授業を意識して取り組む教員が増加した。大学入試センター試験で9割以上の得点が取れる水準を目指した授業についても定着しつつある。今後も、年間2回実施の生徒による授業評価等も活用しながら、各教科会での議論を通じて一層の授業改善を図っていく。

#### ② 進路指導

定例の進路検討会や職員会議における模試分析等を通じて、全教職員で指導のベクトルを揃え、センター試験フル型受験を基本とする、現役国公立大学合格のための指導は一定の成果（計92名）を上げた。一方で、最上位層の育成という点では、昨年度に引き続き目標数値（第1グループ計15名以上）を達成した。ベースとなる大学進学指導は確立しているので、生徒の「高い志」を育成し、志望を下げさせない指導の徹底と工夫が今後の課題である。今後は東大推薦合格者の輩出も視野に入れ、探究学習の成果を高め、より高次の進路実現を目指していく。

#### ③ 募集・広報活動

理数研究校としての取組や近隣国公立大学への合格者数が多いことなどを積極的に広報したが、応募倍率の上昇にはつながらなかった。地道に近隣及び在校生の在籍した中学校訪問を徹底して行うなど、募集・広報活動を活発化させてきたが、さらに工夫を重ねるとともに、活動対象に小学生を視野に入れたものにする必要がある。刷新されたホームページ及びTwitterの活用により、生徒による学校行事や部活動等のレポートを拡充していき、小・中学生が知りたい情報を積極的に公開していく。

#### ④ 生活指導

基本的な生活習慣や挨拶、ルール・マナーの徹底を呼びかける取組を実施し、生徒の意識向上を図った。またスクールカウンセラーとの連携により、心身に不安を抱える生徒の定期的なケアを実施するとともに、関係機関とも連携した対応を行った。

地域からの評価も含めて、交通マナー等についての改善は継続的な課題である。いじめ・体罰を許さない環境づくりについても、校内研修や生徒への意識啓発等を計画的に実施しており、今後も引き続き、適切な指導がなされるよう教職員、生徒の意識啓発を図っていく。

#### ⑤ 特別活動・部活動

生徒が主体的に行動し、帰属意識や成功体験を身に付けさせるような指導を実施した。体育祭については、事故が起こらないよう安全面への配慮を最優先しながら、会場設営やプログラム内容等を精査して適正に実施することができた。東京外国語大学との高大連携プログラムでは参加生徒の積極的な取組について大学側からも高評価を得た。台湾・高雄市立高雄高級中學との国際交流や八王子東特別支援学校との交流活動なども行事として定着し、担当生徒が企画・運営面でも主体的に創意工夫を発揮することができた。今後は本校独自の海外研修をさらに充実させ、学校の特色化に役立てたい。

#### ⑥ 心身の健康づくり

養護、担任、学年、管理職と十分な情報共有を図りながら各種保健対応を行うことができた。全教員対象の校内研修会では、特別支援教育に関する理解啓発を図るとともに、発達障害等に関わる知識を共有した。また

生徒相談委員会や各学年に配置した特別支援教育コーディネーターを活用し、特別な配慮を要する生徒への支援体制もより一層整備された。今後も、スクールカウンセラーや学校医、ユースソーシャルワーカー等とも連携して、個々の生徒の心身の状況に配慮したケアを実施していく。

#### ⑦ 学校経営・組織体制

毎週行われる各分掌部会や教科会での議論が集約された形で企画調整会議が行われ、学校経営計画を具現化することを意識した組織的な学校経営が実行できた。特に進学指導重点校としてのミッションを遂行すべく、各種数値目標の達成に向けて教職員の意思統一を図りながら各種取組を行うことができた。

教職員の服務については、引き続き厳正に対応できている。経営企画室は、経営参画ガイドラインに従い適正に業務を行うとともに、今後は一層の経営参画機能を高めていく。

#### ⑧ 健康で明るい職場づくり

進学指導重点校として、日々の授業準備やきめ細かな面談指導など、個々の教員に求められる業務は過重になりがちである。節電に配慮しつつも夏・冬の空調環境等を適正に管理するなど、職場環境の改善に一定の成果は得られた。ライフ・ワーク・バランスを意識し、教職員の健康管理や働きやすい職場環境の構築という点では、今後も引き続き改善を図っていく必要がある。

## (2) 重点目標への取り組みと自己評価

<数値>

- ① 難関国公立大学（東大・京大・一橋大・東工大・国公立医学部）現役合格者数 15名以上  
（H.29 実績13名・H.30 実績16名・R.1 実績15名）
- ② 国公立大学合格者数（現役） 100名以上  
（H.29 実績114名・H.30 実績92名・R.1 実績92名）
- ③ センター試験受験者のうち5教科7科目型受験者数 240名以上  
（H.29 実績219名・H.30 実績229名・R.1 実績194名）
- ④ センター試験（5-7・6-7型）全国平均上回り率1.25以上の得点者 75名以上  
（H.29 実績53名・H.30 実績51名・R.1 実績34名）
- ⑤ 入学者選抜の最終応募倍率 推薦：3.0倍／一般：1.5倍  
（H.29 実績2.74倍／1.54倍・H.30 実績2.10倍／1.32倍・R.1 実績1.98倍／1.46倍）

<詳細>

- ① 難関国公立大学現役合格者数については、東大2・京大0・一橋大5・東工大4・医学部医学科4の合計15名となり目標数値を達成することができた。最上位を意欲的に目指す生徒の育成と同時に二番手層以降の学力をさらに高め、学校全体としての高い進路実現を可能にすることが本校の大きな課題となっている。現役で国公立大学に合格するという大きな目標は全校生徒に共有され、一定の成果を出し続けているが、果敢に最難関を目指そうという生徒層を厚く育成していく工夫が一層求められる。
- ② 本校が培ってきた組織的な進路指導を一層徹底したことにより、結果として国公立大学現役合格者数は、一定数を輩出している。しかし、近年の傾向である、成績上位の生徒の現役・首都圏、安全志向の高まりにより第1グループ受験者数が減少していることが課題である。特に、東京大学受験者数の減少が残念である。この点を打破して「高い志」を実現できる生徒を育成することが極めて重要である。
- ③ センター試験をフル型で受験するという本校の基本方針は、生徒・保護者にも浸透しており、全ての教科・科目をきちんと学習するという基本姿勢は定着できている。安易に受験科目を絞り込ませず、最後までトータルな学力を伸ばすことが重要であるという指導方針は今後も堅持していく。
- ④ 今年度のセンター試験平均点上回り率1.25以上を達成した生徒は文系で13名、理系で21名であり、昨年に比べると減少した。上位層人数は大きな減少はなかったが、2番手層や下位層の育成に課題が残った。

また昨年と同様にセンター高得点者が最後に志望を下げるなど、安全志向が強すぎる傾向も見られた。

- ⑤ 今年度の募集対策では、探究活動の取組などを積極的にアピールすることを行った結果、学校説明会やグループ作成問題解説会などへの参加人数は大幅に増加した。しかし、本校の手厚い進路指導や面倒見のよい学習指導というアピールポイントだけでは、他校との差別化に大きな効果を持たなくなっている。教育課程の変更を伴う探究的な学習の充実など新たなカリキュラムに基づく広報戦略を打ち出していくことが必要である。

## 2 次年度以降の課題と対応策

### 【課題】

- ① 探究的な学習を計画的に実行するための組織体制とカリキュラムや評価についての研究開発。
- ② 最難関への挑戦、頂点を目指すチャレンジ精神の育成。
- ③ 科学オリンピックやコンテストなど理数教育に関する取組の充実。
- ④ 生徒の主体的な深い学びを実践するための授業改善、カリキュラム研究。
- ⑤ ホームページのスマートフォン対応等の改善と募集広報活動の活性化

### 【対応策】

- ① 英語4技能検査の導入など、大学入試改革を見据えたカリキュラム研究を早急に進めるとともに、探究的な学習活動を導入し、生徒の主体的な学習を推進していく。
- ② 早い段階から最難関大学（第1グループ）を意識させ、各分野でトップを目指すには自ら高い目標を設定し、最後まで目標を貫徹することが必須であることを学年集会やHRなど、様々な場面で生徒に意識付ける。
- ③ 理数研究校としての活動を活かし、論理的思考力や知的探究心を備えた人材育成の基礎となる各種取組を展開するとともに、探究的な学習と連携した次の事業へと発展させる。
- ④ 学習・生活指導や特別活動等を含めて、生徒に自主的・能動的な行動を促し、日々の活動を通じて自己への自信を培い、自己肯定感を育成する。
- ⑤ 教職員のみならず、在校生を活用した広報活動や、卒業生保護者や同窓会、後援会による協力など、学校内外の人的資源を活用して募集広報活動の活性化を図る。